



あらゆる表面をカガクで変える

2026年3月期 決算説明会資料

決算概要

- 連結損益計算書
- 営業利益の増減要因
- 連結業績の推移
- 連結業績の四半期推移
- 各セグメントの事業内容と売上構成割合
- 各セグメントの所在地別損益
- 各セグメント売上高の所在地別割合
- 営業外損益・特別損益
- 設備投資の状況
- 研究開発の強化
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー
- 配当方針と株主還元
- 来期の業績予想

Vision2030の達成に向けた取り組み

- Vision2030の実現に向けた取り組み
- 事業ポートフォリオ拡大のための技術開発
- 資本コストを意識した経営の推進

参考資料

- 主要関係会社一覧
- 業績ハイライト

2026年3月期 決算概要

連結損益計算書

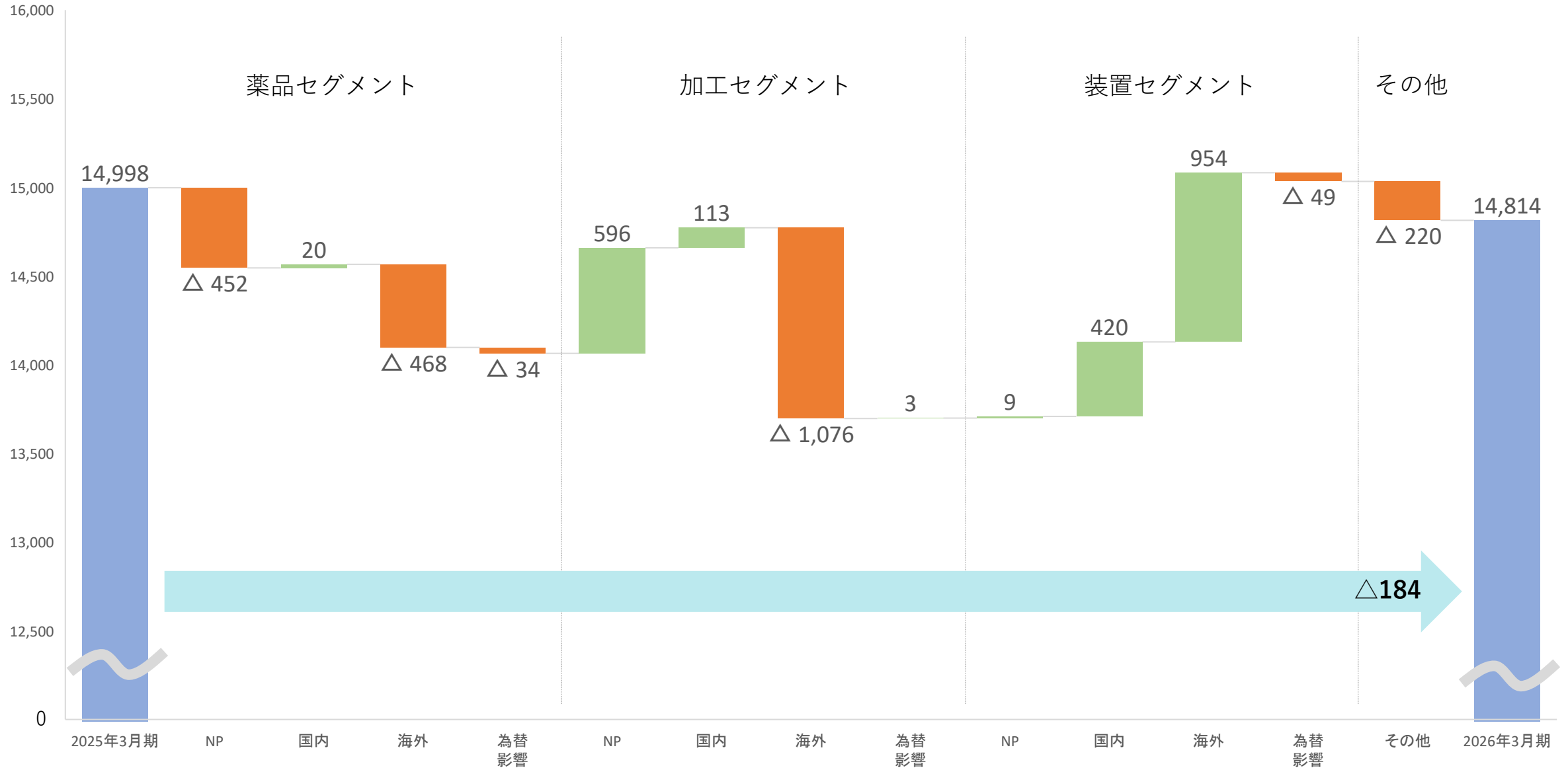
(単位：百万円)

項目	2025/3	2026/3	増減	増減率	
売上高	132,281	138,155	+5,874	4.4%	全てのセグメントで増収 (薬品+1,302、装置+3,414、加工+816、その他+339)
営業利益	14,998	14,814	-184	-1.2%	薬品と加工は減益、装置は増益。全体は減益。 (薬品-976、装置+1,430、加工-341、その他-296)
経常利益	19,936	19,667	-269	-1.3%	営業外収益 5,689百万円 (持分法利益1,454百万円他) 営業外費用 835百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	13,112	12,940	-172	-1.3%	特別利益 4,791百万円 (投資有価証券売却益 4,235百万円他) 特別損失 1,508百万円 (減損損失 805百万円他)
1株当たり利益	112.20円	117.16円	-	-	
総資産経常利益率	7.4%	7.3%	-	-	
自己資本利益(ROE)	6.9%	6.5%	-	-	
期中平均レート(USD)	151.58円	149.71円	-	-	※前期：2024/1～2024/12の期中平均換算レート ※当期：2025/1～2025/12の期中平均換算レート

- 海外売上高比率（日本からの輸出を含む）：46.0%
- 為替換算による影響：売上高 約-643百万円、営業利益 約-80百万円

営業利益の増減要因

(単位：百万円)

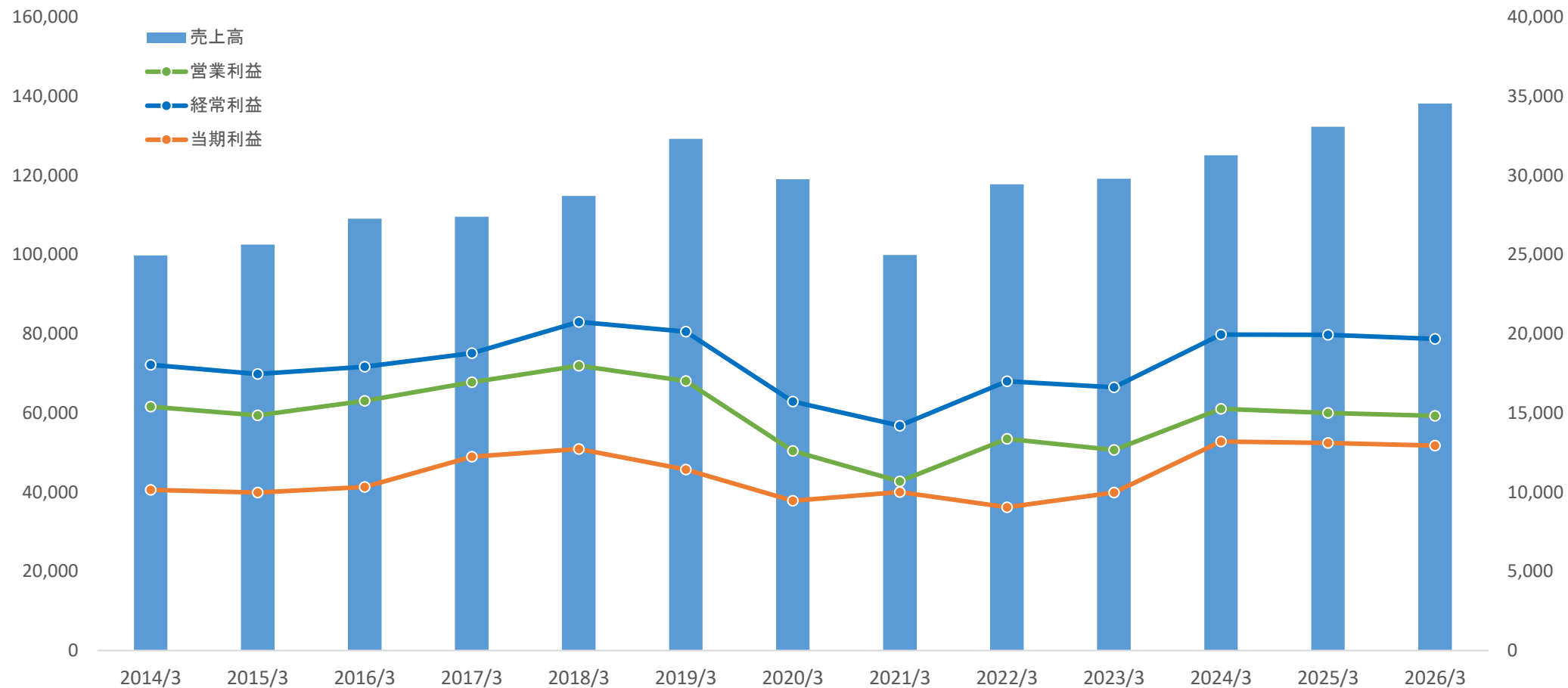


連結業績の推移

(単位：百万円)

(売上高)

(利益)



第1次中計

第2次中計

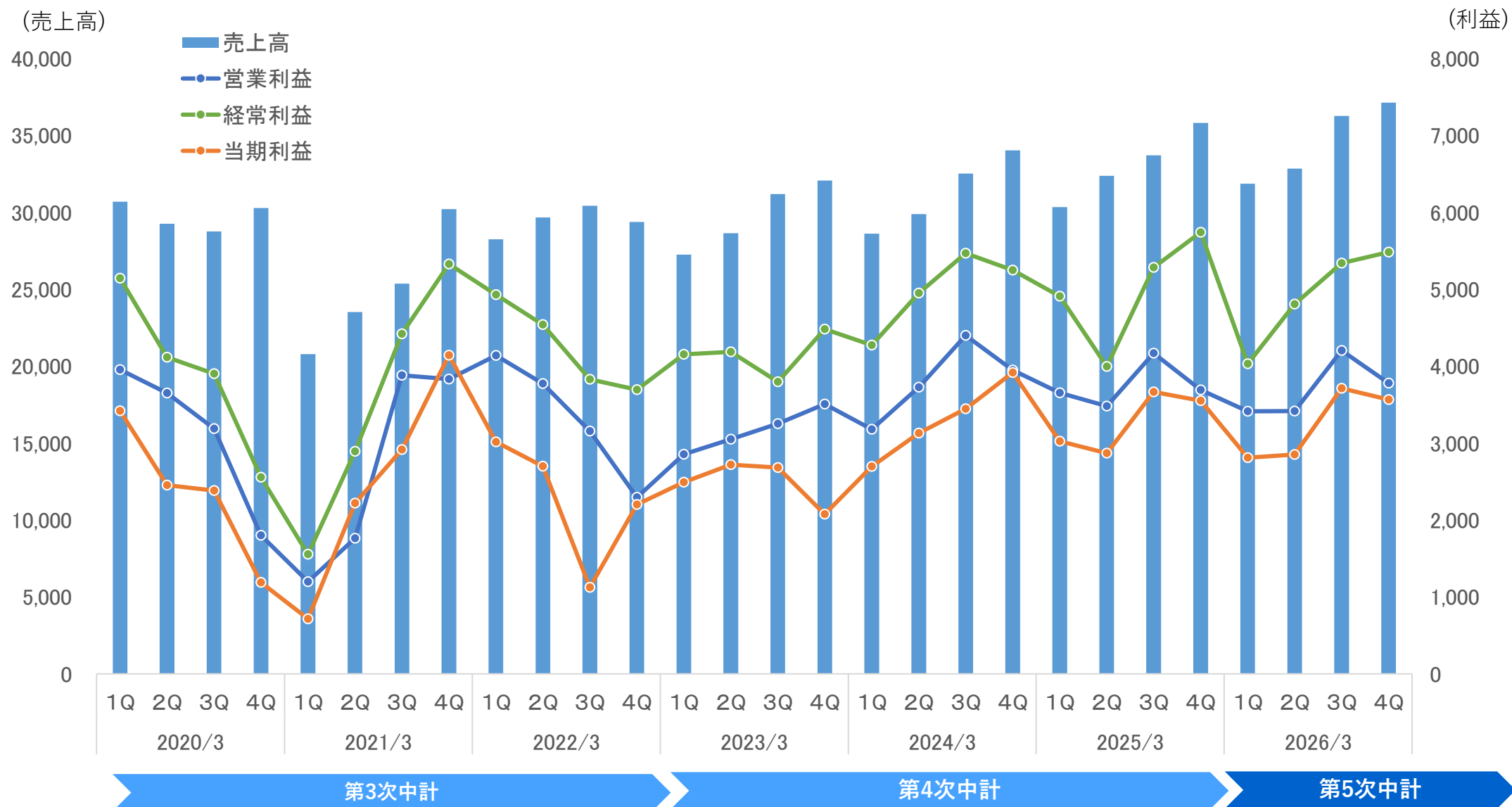
第3次中計

第4次中計

第5次中計

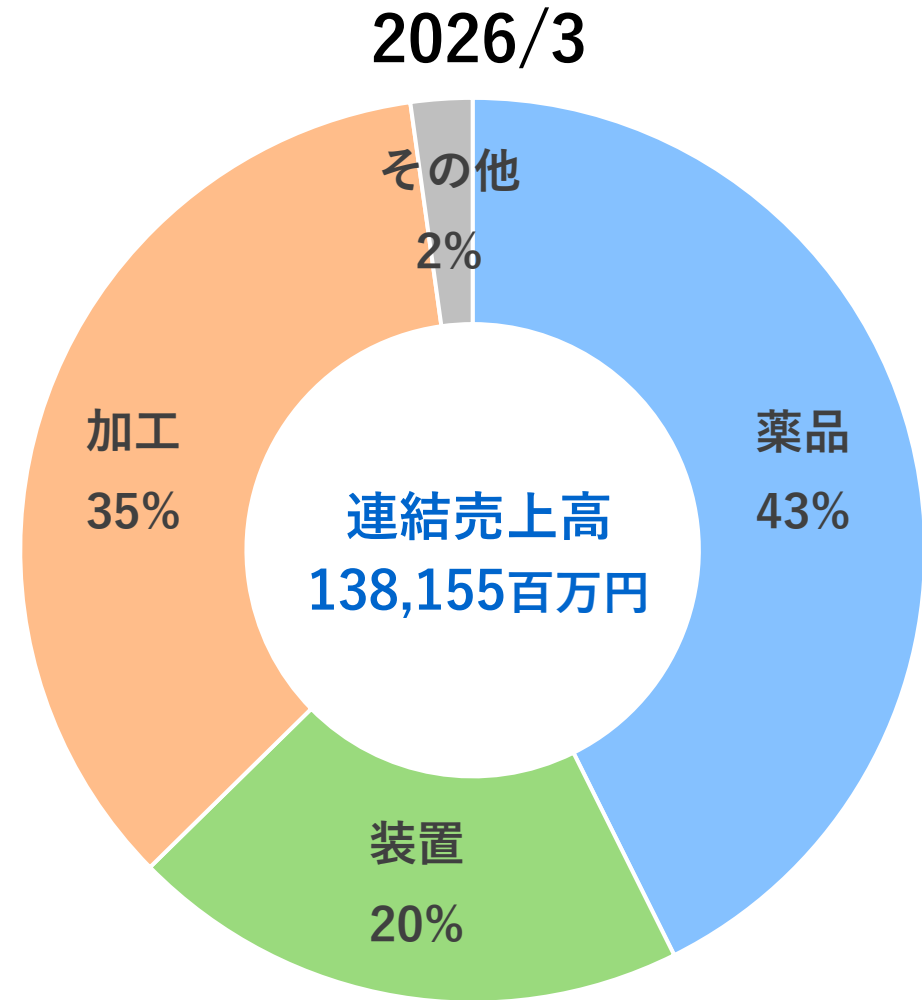
連結業績の四半期推移

(単位：百万円)



各セグメントの事業内容と売上構成割合

セグメント	主な事業内容
薬品	<ul style="list-style-type: none"> ● 塗装下地 ● 金属防錆 ● 潤滑皮膜 ● 圧延油 ● 防錆油 ● 無電解Niめっき液 ● その他機能性皮膜薬剤
装置	<ul style="list-style-type: none"> ● 前処理装置、電着装置 ● 排水処理装置 ● 塗装装置・ロボット ● 塗装ブース・空調設備 ● 粉体塗装 ● コンベヤシステム ● その他規格品・消耗品
加工	<ul style="list-style-type: none"> ● 化成処理 ● 塩浴軟室化 ● ガス浸炭・浸炭窒化 ● ガス軟室化 ● 無電解Niめっき ● 固体潤滑 ● その他加工処理
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物のメンテナンス工事 ● 医療機器 ● その他



各セグメントの所在地別損益

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2025/3	2026/3	増減	2025/3	2026/3	増減
日本	32,284	33,204	+919	5,245	4,814	-431
アジア	24,262	24,840	+577	4,091	3,726	-364
欧米	1,069	874	-194	231	93	-137
セグメント間売上等	1,379	1,231	-147	772	729	-42
薬品	58,996	60,151	+1,155	10,340	9,363	-976
日本	16,003	16,173	+170	224	655	+430
アジア	7,617	10,711	+3,093	111	1,020	+908
欧米	585	737	+151	79	76	-3
セグメント間売上等	479	773	+293	269	364	+94
装置	24,686	28,395	+3,708	685	2,116	+1,430
日本	24,944	26,143	+1,199	3,261	3,971	+709
アジア	12,701	12,599	-101	1,455	1,025	-429
欧米	10,108	9,827	-281	74	-569	-643
セグメント間売上等	51	72	+21	226	247	+21
加工	47,805	48,643	+838	5,016	4,675	-341
その他	2,846	3,113	+267	75	-19	-94
合計	134,333	140,303	+5,969	16,118	16,136	+17
調整	-2,052	-2,147	-95	-1,120	-1,322	-202
連結	132,281	138,155	+5,873	14,998	14,814	-184

(注:各セグメントの合計はセグメント間取引を含みます。)

薬品

- 国内で鉄鋼分野・自動車分野を中心に、緩やかな回復基調で推移。欧米地域では低調にて推移しましたが、アジア地域は売上が増加。その結果、薬品事業全体の売上高は増加。
- 原材料価格の高値圏での推移及び、人件費及び減価償却費の増加により営業利益は減益。

装置

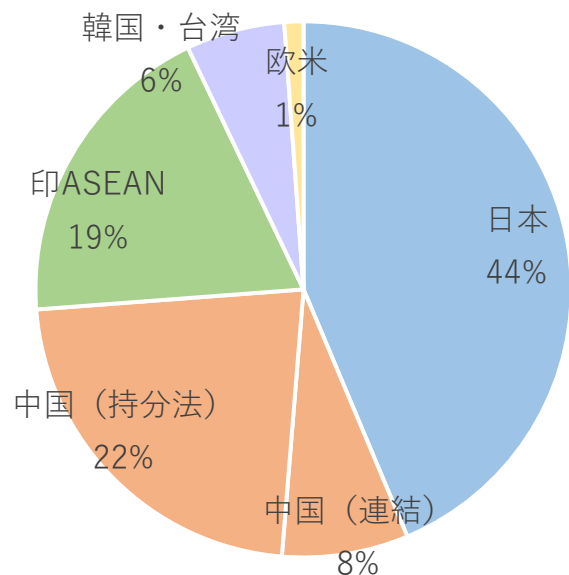
- インド、中国などの海外での販売拡大のほか、国内でも同様に販売が増加。その結果、装置事業全体で売上高は増加。
- 売上高の増加に伴い、営業利益も増加。

加工

- 国内は、自動車業界等向けに受注が増加。一方、タイ・中国等では日系自動車メーカーの販売が伸び悩み、当社も売上が減少。米国等も同様に販売が減少。
- 原材料費・光熱費の高止まり、及び人件費や減価償却費等の増加により、営業利益は減少。

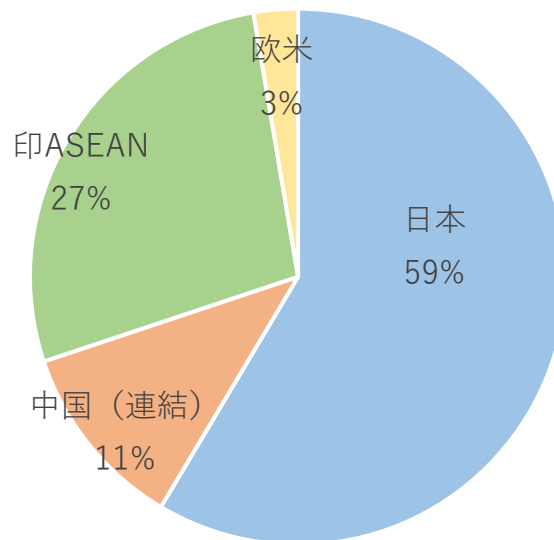
各セグメント別・リージョン別売上構成割合（※中国持分法適用会社の売上高を含む）

薬品



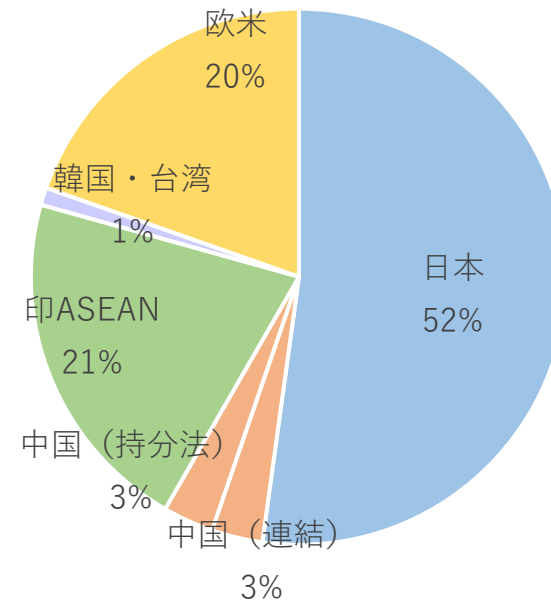
連結子会社 58,919百万円
持分法会社 17,120百万円

装置



連結子会社 27,621百万円
持分法会社 - 百万円

加工



連結子会社 48,570百万円
持分法会社 1,531百万円

リージョナル経営の推進 ～ グループ連携の強化×海外事業拡大 ～

営業外損益及び特別損益

- 受取利息及び受取配当金に加えて、国内及び中国の関連会社に対する持分法による投資利益及び受取技術料などを計上した結果、経常利益は19,667百万円となりました。
- 特別利益4,791百万円（うち投資有価証券売却益4,235百万円）、特別損失1,508百万円（うち減損損失805百万円）などを計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は12,940百万円となりました。

(単位：百万円)

	2025/3	2026/3	増減
営業利益	14,998	14,814	-184
営業外収益合計	5,690	5,689	-1
受取利息	1,069	1,039	-29
受取配当金	802	809	+6
受取技術料	791	892	+100
持分法による投資利益	1,825	1,454	-370
その他	1,201	1,493	+293
営業外費用合計	753	835	+82
支払利息	17	8	-9
その他	735	827	+92
経常利益	19,936	19,667	-268
特別利益	1,186	4,791	+3,605
特別損失	1,420	1,508	+87
税金等調整前当期純利益	19,702	22,951	+3,249
法人税等	5,514	8,659	+3,145
非支配株主に帰属する当期純利益	1,075	1,350	+275
親会社株主に帰属する当期純利益	13,112	12,940	-172

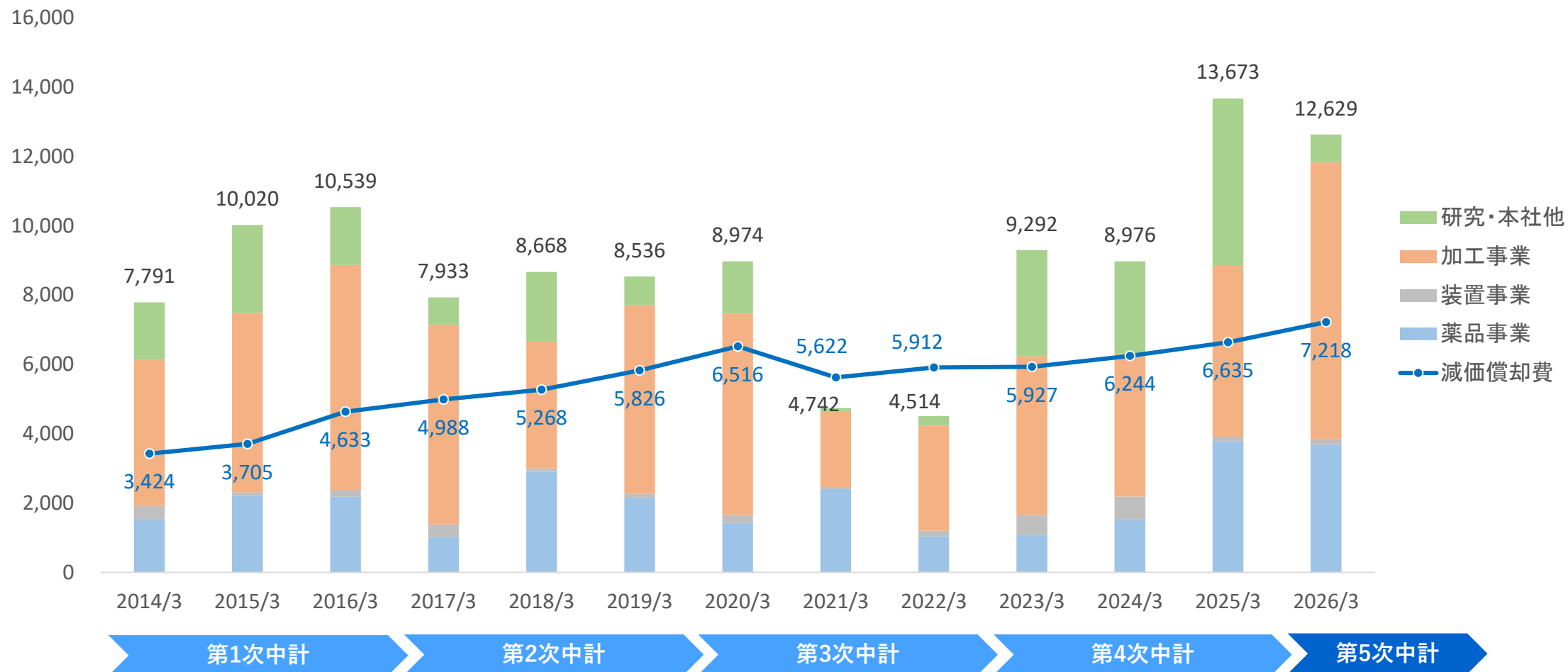
中国・台湾地域からの収益

	2025/3	2026/3	増減
営業利益	372	542	+170
受取技術料	243	298	+55
持分法利益	749	671	-78
合計	1,365	1,511	+146

投資有価証券売却益 4,235百万円他
減損損失 805百万円他

設備投資の状況(有形及び無形固定資産の増加額)

(単位：百万円)

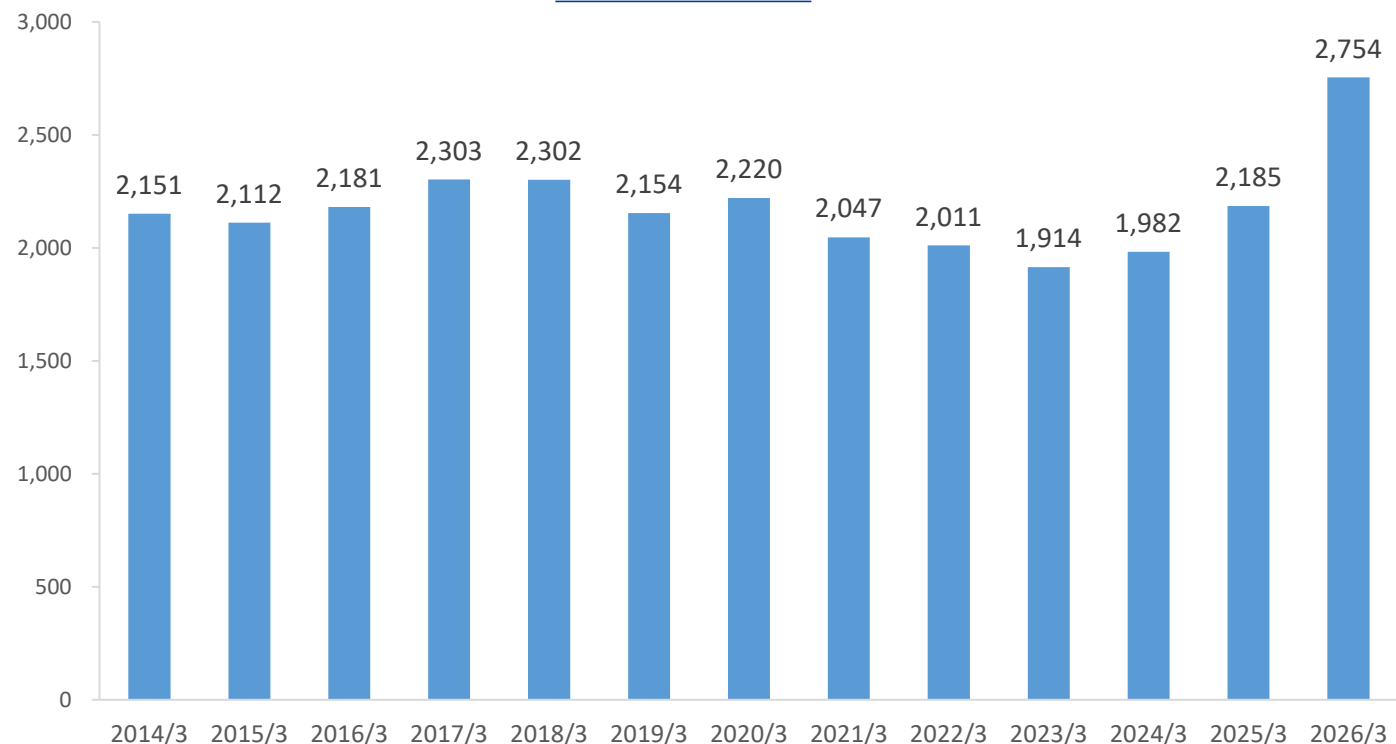


■ 2026年3月期は、国内やベトナムにおける加工工場の拡張投資などを実施

研究開発費の推移

(単位：百万円)

研究開発費の推移



総合技術研究所には130名超が在籍し、約20億円を継続的に研究開発に投資

- 新総合技術研究所を2025年4月に開所し、新総合技術研究所に「先端技術研究部」と「コア技術研究部」を設置
 - ▶ 摺動性や絶縁性の向上、CO₂排出削減、省エネルギーに寄与する表面処理技術の開発
 - ▶ 当社の表面処理技術を活用した医療機製品の開発（2023年2月に第一種医療機器製造販売業を取得）
 - ▶ 薬剤・装置・加工が一体となった差別化技術の開発



新総合技術研究所（2025年4月開所）

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025/3	2026/3	増減	
流動資産	137,868	127,104	-10,763	現金預金-5,051百万円
固定資産合計	129,381	145,989	+16,607	
有形無形固定資産	75,848	80,661	+4,812	取得+12,629百万円、減価償却-7,218
投資その他の資産	53,532	65,327	+11,795	投資有価証券 +6,019百万円
資産合計	267,250	273,094	+5,843	
流動負債	32,617	36,436	+3,818	支払手形及び買掛金-398百万円、未払法人税等+4,225百万円
固定負債	11,334	15,200	+3,866	
負債合計	43,951	51,636	+7,685	
純資産合計	223,298	221,457	-1,841	
株主資本	165,531	163,993	-1,536	当期利益 + 12,940百万円、自己株式-8,640百万円、配当-5,612百万円
その他包括利益	29,687	37,828	+8,140	
非支配株主持分	28,080	19,635	-8,445	
負債純資産合計	267,250	273,094	+5,843	
自己資本比率	73.0%	73.9%		自己資本比率は安定的に推移

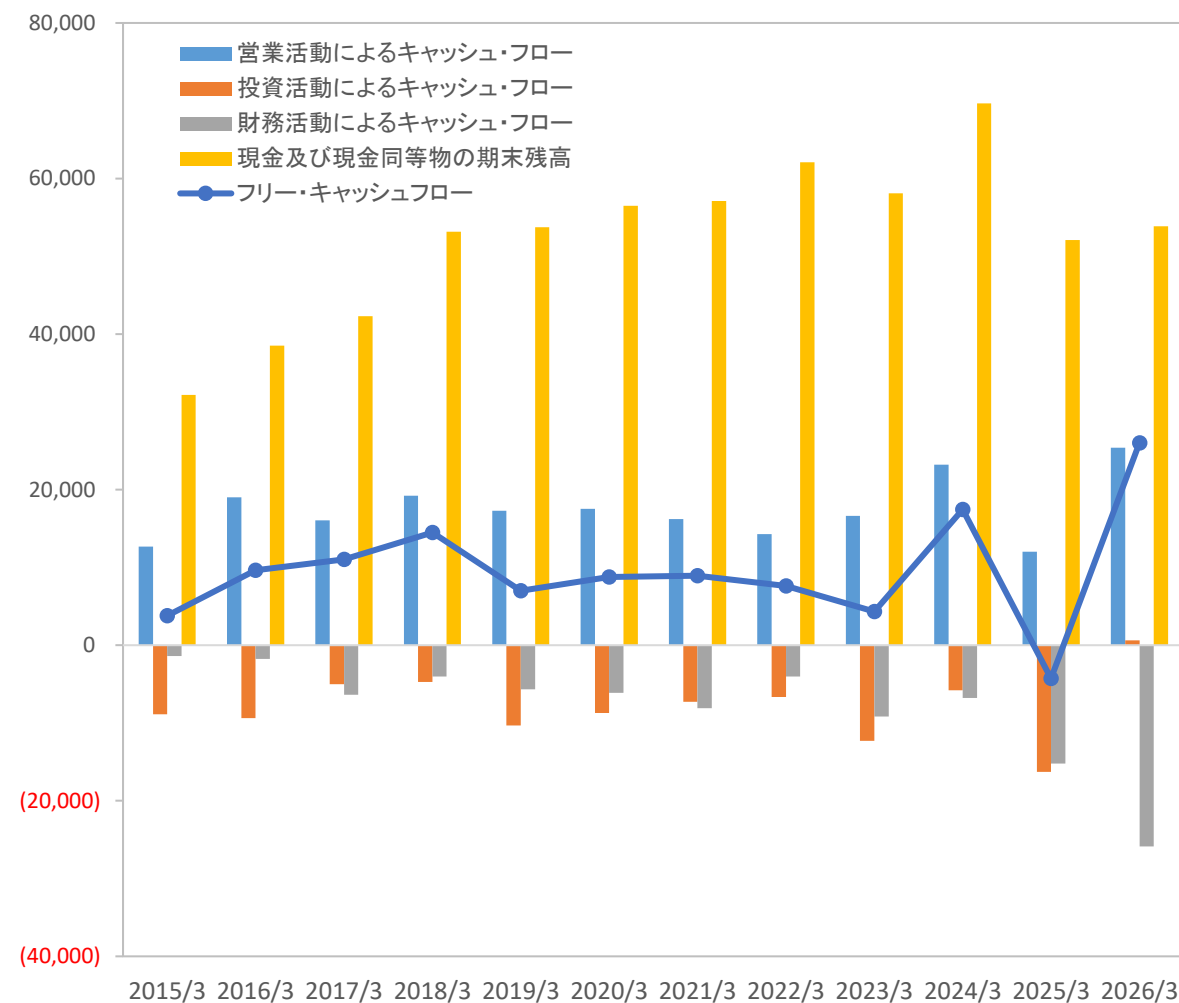
※自己資本比率 = (純資産合計 - 非支配株主持分) / 負債純資産合計

連結キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2025/3	2026/3
営業活動によるキャッシュフロー	12,010	25,402
税金等調整前当期純利益	19,702	22,951
減価償却費	6,635	7,218
その他	-14,327	-4,767
投資活動によるキャッシュフロー	-16,283	617
有形固定資産の取得による支出	-11,127	-11,776
その他	-5,156	12,393
財務活動によるキャッシュフロー	-15,227	-25,857
配当金の支払	-5,420	-5,754
被支配株主への配当支払	-1,196	-7,313
自己株式の取得による支出	-8,062	-8,640
連結の範囲の変更を伴わない 子会社株式の取得による支出	-182	-4,103
その他	-365	-45
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,937	1,588
現金及び現金同等物の増減額	-17,563	1,751
現金及び現金同等物の期首残高	69,661	52,097
現金及び現金同等物の期末残高	52,097	53,849

■ 設備投資による支出や、自己株式の取得による支出が増加したものの、期末残高は増加

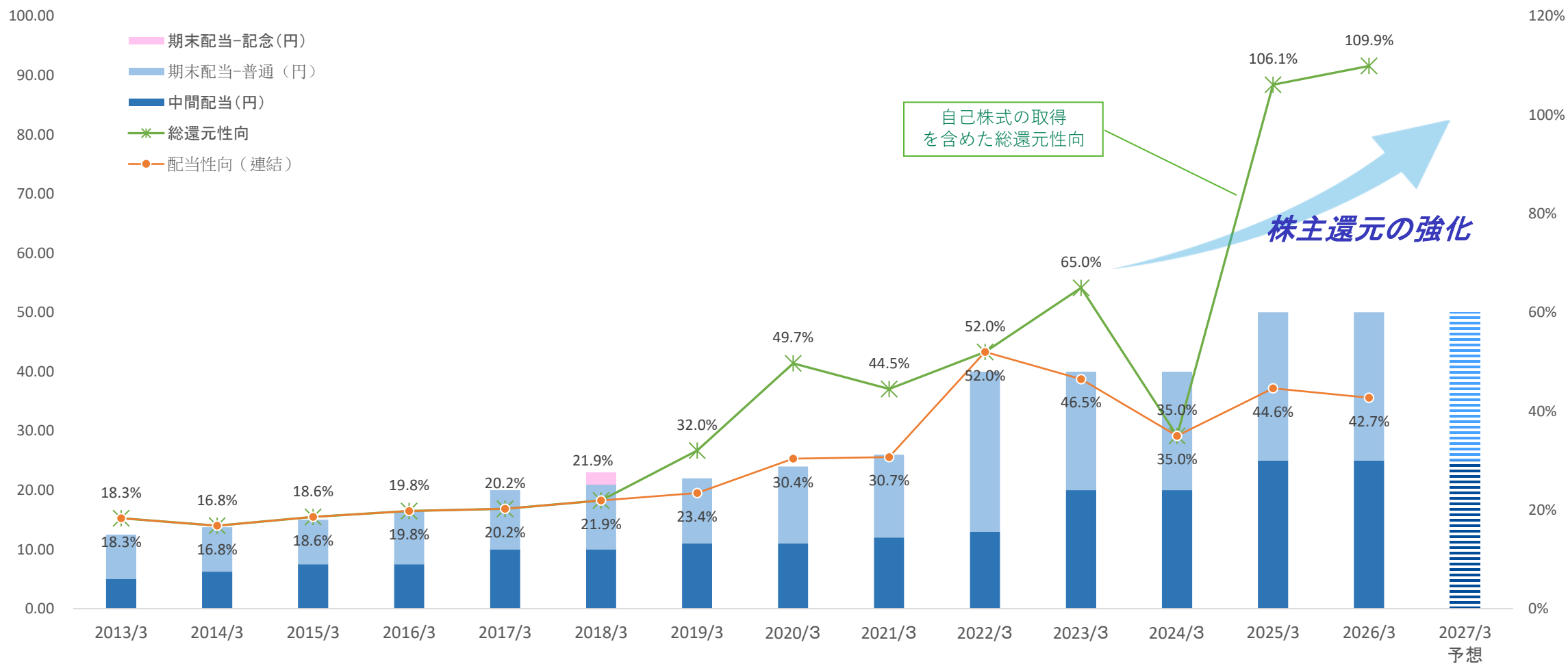


2015/3 2016/3 2017/3 2018/3 2019/3 2020/3 2021/3 2022/3 2023/3 2024/3 2025/3 2026/3

(注：フリー・キャッシュ・フロー＝「営業CFによる収入」－「投資CFによる支出」)

配当方針と株主還元

- 配当については、成長のための投資資金及び財務基盤の安定性がある程度確保されたと判断し、安定した配当の継続と総還元性向についても視野に入れて、当面の間は配当方針(連結配当性向30%程度)を上回る配当を継続する方針です。
- また、ROEの向上に向けて、資本効率を高めるために、手元資金や株式市場の動向など状況に応じて、自己株式取得を機動的に実施してまいります。



来期の業績予想

(単位：百万円)

	A 実績 2026/3	B 予想 2027/3	B-A 前期との 差額
売 上 高	138,155	134,000	-4,155
薬 品	58,919	61,500	+2,581
装 置	27,621	21,400	-6,221
加 工	48,570	48,119	-451
そ の 他	3,043	2,981	-62
営 業 利 益	14,814	15,000	+186
経 常 利 益	19,667	19,000	-667
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	12,940	14,000	+1,060
営 業 利 益 率	10.7%	11.2%	-
経 常 利 益 率	14.2%	14.2%	-
想定レート(US \$)	149.71円	156.00円	-

世界的な物価上昇の継続や金融資本市場の変動、米国の通商政策の影響などの懸念材料に加えて、緊迫化する中東情勢を背景としたエネルギー価格や原材料コストの上昇も見込まれていることから、依然として先行き不透明な状況が続いております。こうした中、原材料価格の上昇に対しては、顧客の理解を得ながら適時適切に販売価格へ反映していくことが重要な課題であると認識しており、適切な収益の確保に向けた取り組みの強化を図っております。

このような事業環境の中、2027年3月期の業績予想につきましては、全体で売上高は1,340億円で計画しております。

Vision2030の実現に向けた取り組み

Vision2030の実現に向けた取り組み

Vision2030の実現に向けて、第5次グループ中計では、以下の取り組みを推進！

海外事業の拡大 ～リージョナル経営の推進～

- 各リージョンへの権限移譲
 - ・ 現地マーケティング機能の強化による非日系企業の攻略
 - ・ 現地ニーズへの迅速な対応

新しい柱の創出 ～変革への挑戦～

- 事業ポートフォリオ拡大のためのM&Aや戦略的アライアンスの積極推進
- 当社グループの表面処理技術を活用した製品の開発
 - ・ 医療機器（パーカーメドテックの設立）
 - ・ 素形材（金属などの素材に熱や力を加えた中間部品）

新技術の開発 ～技術立社～

- 摺動性や耐摩耗性の向上など脱炭素社会に貢献する技術開発
- エレクトロニクスや新エネルギー分野における技術開発

既存市場の深耕 ～グループ連携の強化～

- 薬品・装置・加工一体となった営業と技術開発の推進
- グループ再編を含めた経営効率の向上に取り組みを推進
 - ・ タイパーカー（海外合弁）の出資比率を49%から67%へ引き上げ（2025年12月）
 - ・ パーカープロセッシング（株）の設立（当社加工事業本部とパーカー加工（株）の統合）（2026年4月）
 - ・ 北海道パーカライズング（株）の吸収合併（2026年4月）

Vision2030実現に向けた基本戦略

海外事業の拡大

～リージョナル経営の推進～

新しい柱の創出

～変革への挑戦～

既存市場の深耕

～グループ連携強化～

新技術の開発

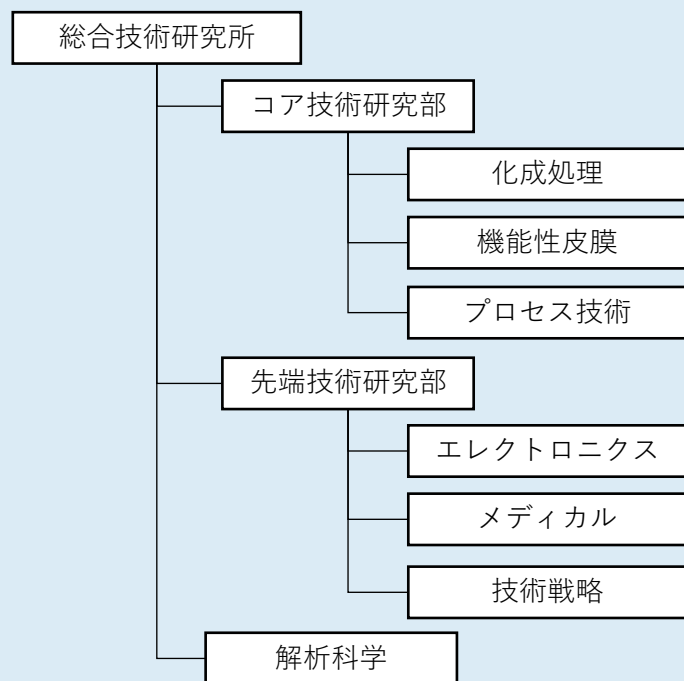
～技術立社～

事業ポートフォリオ拡大のための技術開発 (1/2)

新総合技術研究所に「先端技術研究部」と「コア技術研究部」を設置

- 脱炭素社会の実現など社会課題の解決に貢献する表面改質技術の開発
- 海外現地ニーズに適合した技術開発（中国・タイの研究開発拠点との連携）
- EV化や次世代自動車向け技術の開発
- 当社の表面処理技術を適用した製品の開発（医療機器など）
- 前後工程を組み合わせた複合技術の開発
- 新規分野参入に向けた技術FSや調査

<新総合技術研究所の組織体制>



(2025年4月開所)

各リージョンのニーズに適合した迅速な技術開発

新・総合技術研究所



パーカー表面処理技術(上海)有限公司



パーカー・サーフェステクノロジー・アジアパシフィック
(タイパーライジング・ヘマラート工場内)

顧客に密着した技術サポート体制

1 化成処理技術

- 表面を清浄にする技術
- ナノから数十ミクロンの皮膜形成コントロール
- 環境にやさしい低温化成処理技術
- 安定操業を実現する現場サポート力

2 機能性皮膜技術

- 多機能化、新機能付与を実現する皮膜形成技術
- 素材と処理方法に応じた表面処理加工設計技術

3 プロセス技術

- 素材の表面から表面近傍の改質と制御
- 耐摩耗性や耐熱性の向上による長寿命化などの環境負荷低減技術
- 低歪みかつ高強度の熱処理技術の開発
- 前後工程を組み合わせた複合技術の開発
- 薬剤・装置・加工が一体となった技術開発

4 新規分野開拓に向けた技術開発

- エレクトロニクス分野における技術開発
- 絶縁性や導電性の向上による省エネ技術の開発
- 当社の表面処理技術を適用した製品の開発 (医療機器など)
- 新エネルギー分野における技術開発

総合技術研究所 Parker Innovation Center

産学連携

大学や研究機関との共同研究
コンソーシアムへの参画

共同開発

異業種との共同研究・技術提携
提案型研究開発の推進



グループ連携

グループ内の知見・ノウハウの相互活用
海外研究開発拠点 (中国・タイ) との連携

新ビジネスへの挑戦

技術FSと開発テーマ化
スタートアップとの協業



EV



エレクトロニクス



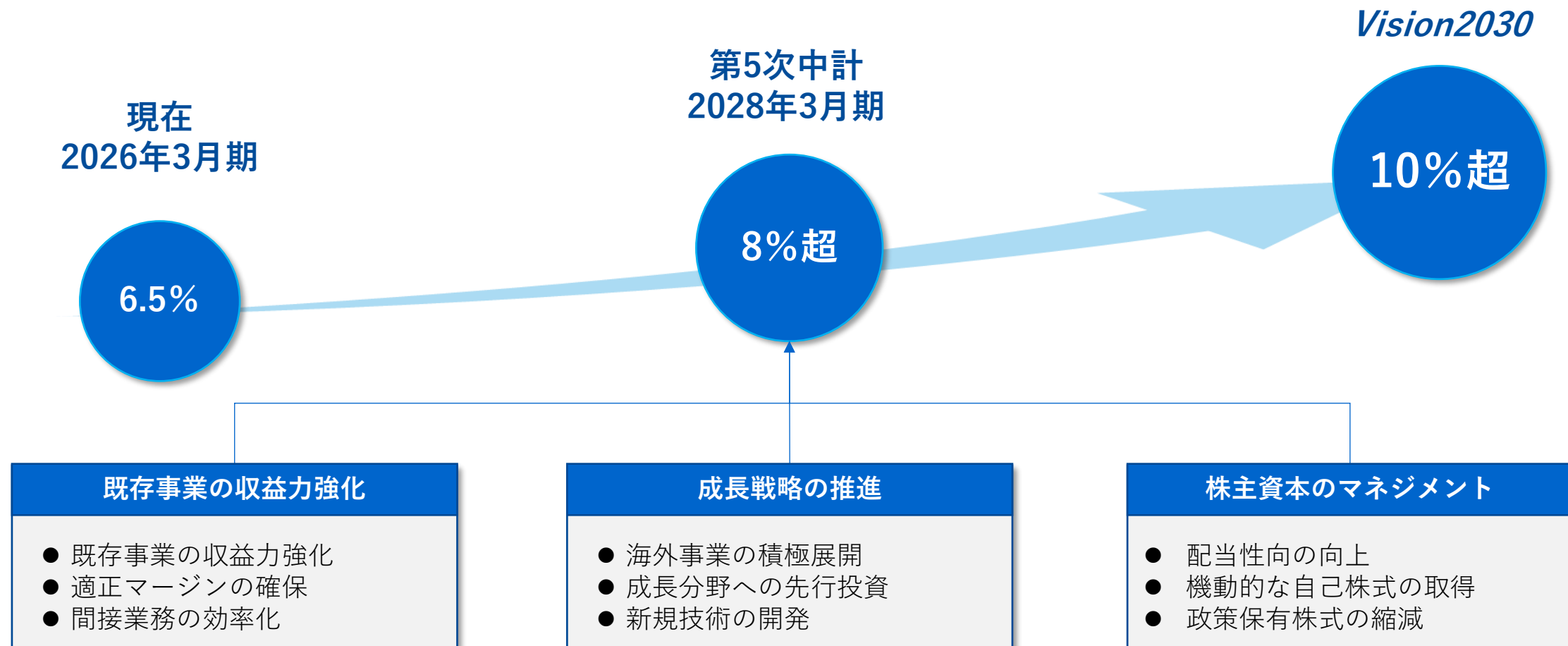
メディカル



プロセス技術

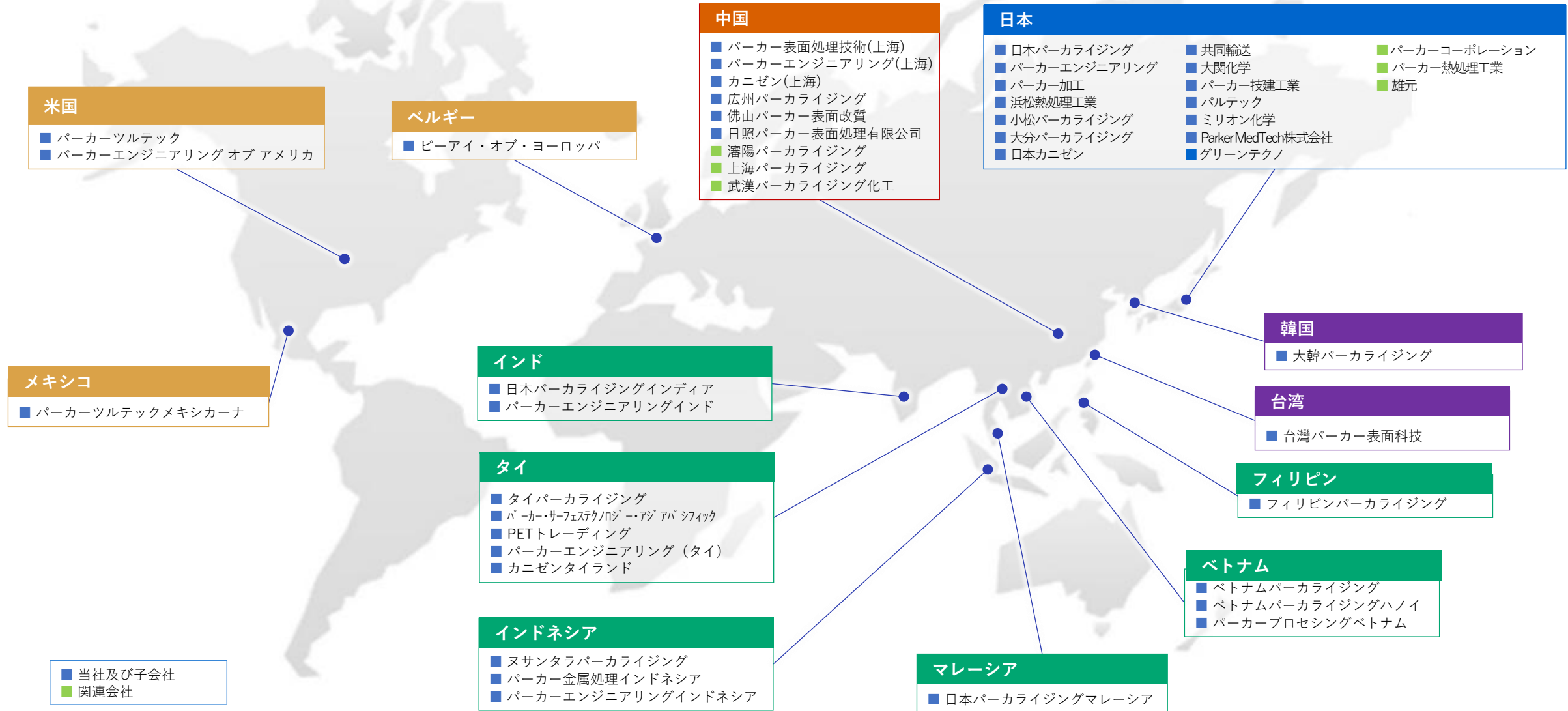
資本コストを意識した経営の推進

株価純資産倍率（PBR）1.0倍超の実現に向けて、資本コストを上回るROEを中長期の目標とし、成長戦略投資、株主還元、財務健全性の維持にバランス良くキャッシュを配分することで、資本効率の向上を図ってまいります。



(参考資料)

リージョナル経営の推進 ~ グループ連携の強化×海外事業拡大 ~



(参考資料) 業績ハイライト

(単位：百万円)



	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
売上高	99,793	102,514	109,063	109,569	114,840	129,207	119,028	99,918	117,752	119,177	125,085	132,281	138,155
営業利益	15,393	14,850	15,766	16,934	17,984	17,023	12,601	10,681	13,370	12,668	15,258	14,998	14,814
経常利益	18,046	17,453	17,921	18,779	20,750	20,130	15,723	14,197	17,003	16,625	19,945	19,936	19,667
親会社株主に帰属する当期純利益	10,142	9,975	10,320	12,228	12,721	11,424	9,449	9,999	9,046	9,973	13,194	13,112	12,940
売上高営業利益率	15.4%	14.5%	14.5%	15.5%	15.7%	13.2%	10.6%	10.7%	11.4%	10.6%	12.2%	11.3%	10.7%
売上高経常利益率	18.1%	17.0%	16.4%	17.1%	18.1%	15.6%	13.2%	14.2%	14.4%	13.9%	15.9%	15.1%	14.2%
総資産経常利益率	11.5%	9.9%	9.5%	9.7%	10.0%	9.2%	7.2%	6.5%	7.6%	7.1%	7.9%	7.4%	7.3%
自己資本利益率 (ROE)	11.1%	9.4%	8.9%	10.2%	9.7%	8.2%	6.7%	6.8%	5.8%	6.1%	7.5%	6.9%	6.5%
自己資本比率	59.5%	61.1%	61.5%	62.5%	62.9%	64.2%	66.1%	68.8%	70.0%	70.3%	69.4%	73.0%	73.9%

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、a) 経済状況、b) 為替レートの変動、c) 製品競争力、d) 法的規制、e) 知的財産保護の限界などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

VISION 2030

あらゆる表面をカガクで変える